



沖縄県立総合教育センター
所報



第 87 号 2023 年 3 月 発行
発行 者 沖縄県立総合教育センター
所 長 富 里 一 公
〒904-2174 沖縄県沖縄市与儀 3 丁目 11 番 1 号

令和4年度 研究発表会

～ 調査研究統一テーマ 「これからの時代に必要となる資質・能力の育成」 ～

「令和4年度 沖縄県立総合教育センター 研究発表会」を令和5年2月3日(金)に開催しました。

「個人・共同研究」では、各班の専門性を生かし、学校の教育課題解決や教育力向上に資する研究として、8編の発表を行いました。「プロジェクト研究」では、北中城村立北中城中学校を研究協力校とし、キャリア教育の視点を通して学びに向かう力を育成する教育の充実を図る授業等を行い、その実践から見えてきた成果および課題を発表しました。研究における成果物として、児童・生徒を対象にHR活動で活用できる学習パッケージ『『キャリア発達』新たな一歩 ～自分×『力』×未来～』の動画や指導マニュアル、ワークシート等を作成しました。これらの成果物は、本総合教育センターのWebページで閲覧およびダウンロードすることができます。また、各教科における研究・実践で作成したワークシートや授業振り返り様式、評価問題例等も合わせて掲載していますので、是非ご活用下さい。

同日開催の教育講演会は、京都大学大学院 教育学研究科 教授 西岡加名恵氏による『『資質・能力』を育成するパフォーマンス評価 - 『学びに向かう力』をどう育てるか』のテーマで御講演をいただき、多くの学びがありました。

令和5年度も本県及び各学校において、教育課題解決の一助となるよう調査研究および教育講演会を企画しています。

【 令和4年度調査研究報告書および成果物 】 <https://kyosys.open.ed.jp/>

【 職員校内研修パッケージ「『キャリア教育』はじめの一歩」 】

各学校がキャリア教育に取り組む際、パワーポイントのスライドに沿って進められる内容の動画および資料

【 児童・生徒学習パッケージ「『キャリア発達』新たな一歩 ～自分×『力』×未来～」 】

「身に付けたい、伸ばしたい力を身に付ける！」を学習のゴールに据え、「かふやみ力」及び「かふやみの20の力」への理解を深めさせる内容の動画および資料

<https://sites.google.com/open.ed.jp/okiseproken2022/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0?authuser=1>

【 調査研究報告書および成果物 】



【 職員校内研修パッケージ 】



【 児童・生徒学習パッケージ 】



令和5年度 移動教育センター講座

宮古地区と八重山地区において、小中学校の教員および教育関係者を対象に、理論学習や実践事例紹介、ワークショップ等、8講座を行う予定です。多くの御参加をお待ちしています。

*主催：本総合教育センター

*期間：令和5年5月～8月

*場所：各地区の教育事務所

【 講座例 】

- | | |
|------------------------|-----------------|
| ① 小・中学校 特別活動 | ② 小学校へき地校複式学級担任 |
| ③ 小・中特別支援教育 | ④ 小学校 算数 |
| ⑤ 小・中学校 道徳 | ⑥ 小学校 国語 |
| ⑦ 中学校 数学 | |
| ⑧ 国際理解・開発教育 (ESD・SDGs) | |

適応指導教室通級児童生徒等スポーツ交流会

令和 4 年 1 月 2 日 (水)、沖縄県総合運動公園メインアリーナにおいて、12 団体 (適応指導教室)、60 名の児童生徒が参加し、「令和 4 年度第 2 回適応指導教室通級児童生徒等スポーツ交流会」が行われました。

本事業は、県内の適応指導教室に通級する児童生徒や教育委員会、学校の教育相談室等に通級する児童生徒が「親睦を深める」「共感的な人間関係の育成」「自己の可能性の開発を援助する」等を目的として毎年 7 月、1 1 月の 2 回開催しています。今年度の活動としては、ラジオ体操 (全体交流) や、スポーツ交流を行いました。



全体集合写真の様子

全体交流では、全児童生徒・指導員の皆さんでラジオ体操を行いました。周りの環境にも徐々になれ、緊張もほぐれ、笑顔でウォーミングアップのラジオ体操を行っているのが印象的でした。

スポーツ交流ではバドミントン、卓球の 2 種目を設定し、児童生徒は、楽しく元気に汗を流していました。

実施後のアンケートでは、そのほとんどが「とてもたのしかった」「楽しかった」と答えており、また、感想からも「楽しい時間を過ごせました」「最初は行きたくなかったけど、思ったより楽しかった」等の声や、引率の先生方からは、「子どもたちの普段見られない一面 (笑顔や他人と会話するなど) を見かけることができた」や「生徒の表情が晴れやかになった」「県内の適応指導教室の児童生徒がスポーツを通し、交流する機会があるということはとても素晴らしい」等好評の声が聞かれました。

この交流会が児童生徒の達成感や自己有用感の向上、何事にもチャレンジする意欲につながればと思います。

適応指導教室通級児童生徒体験活動交流会

～様々な体験活動を通して、児童生徒の自己肯定感を高める～

本総合教育センターの事業の一つに教育相談事業があります。その中で適応指導教室通級児童生徒等への支援の充実を図るため、県内 14 カ所の適応指導教室や各小中学校の教育相談室等に通級する児童生徒を対象とした体験活動交流会を毎年開催しております。

今年度は 12 月 2 日に開催し、82 名の児童生徒が参加しました。「フォトフレーム作り」「オリジナル T シャツ & 缶バッジづくり」「リボンレイストラップ作り」「オリジナルちんすこう作り」「スノードーム作り」など本センター主事の専門性を生かした全 16 の体験活動が行われ、児童生徒はその中から 1 つ選択し活動を楽しみました。



ちんすこう作りの様子

児童生徒の振り返りの感想からは「思っていたよりも数倍難しく作ることができるか心配だったが優しく先生たちがサポートしてくれて、とても助かった」「数学と聞くと数字を想像していましたが、ひねると表と裏が変わるものや箱を展開するのも面白かったです」「最初は不安だったけど、どんどん楽しくなっていた」などの声がありました。90 分間の体験活動を終え、充足感に満ちた表情で閉会式に参加する児童生徒の姿が多く見られ、参加した児童生徒にとって、担当主事や他の児童生徒との交流等、充実した時間を過ごす中で自信を身につけ、達成感や自己有用感を味わう機会になったと実感しました。また、引率した先生方からは「教室では体験できない技術的、専門的分野を体験することができ、生徒がとても満足していました。」「今回が初めての課外活動 (その生徒にとって) です。それほど本人の期待があり、苦手な遠出もイベント参加も大人数との触れ合いも、すべての苦手を乗り越えさせてくれるイベントです。感謝です。」「iPad での音楽作成に生徒が参加しました。完成した音楽をお母さんに聞かせたいと喜んでいました。」などの感想が寄せられ、本事業が児童生徒にとって新しい学びを得るとともに、自己肯定感を高める一助となる貴重な機会になったと感じました。

中学校の先生方の実践力・指導力をサポート！ ～「中学校理科自主講座・中学校技術自主講座」～

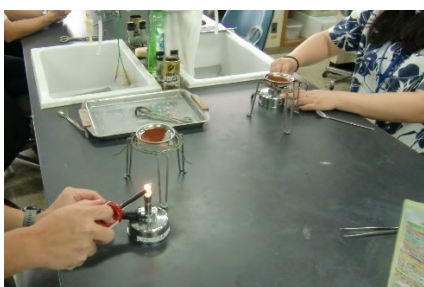
11 月、12 月に中学校理科教員および技術教員対象の自主講座を実施しました。

理科は 11 月に第 1 分野（物理・化学領域）、12 月に第 2 分野（生物・地学領域）について、各主事による専門的な見地からの講義やものづくりを実施しました。中学校技術は 12 月に「ICT を活用した材料と加工の技術の事例紹介」等を行いました。

次年度も小・中学校の先生方対象の自主講座を予定しています。

参加者の感想

- ・炭素の循環の指導法、天球儀の作成どちらも楽しく取り組みました。
- ・身近なもので簡単に作ることができる多くの実験道具を知ることができてとても助かりました（理科）
- ・データ管理やネット環境を考えながら授業で活用したい（技術）



理科 化学変化と物質の質量



技術 実践事例報告

令和 5 年度 実施予定

小学校理科

- 4/14（金）生命分野
- 5/12（金）エネルギー分野
- 6/9（金）粒子分野
- 9/8（金）地球分野

小学校家庭

- 9/20（水）被服の基礎

中学校理科

- 11/10（金）物理・化学領域
- 12/1（金）生物・地学領域

中学校技術

- 12/1（金）事例・実技研修

体験学習教室「親子星空教室」 ～天体ドームの大型望遠鏡で月と木星を観察～

理科研修班では小学 4 年生以上の親子を対象とした体験学習教室として「夏休みおもしろ科学教室」「移動おもしろ科学教室」「親子星空教室」を実施しています。そのうち親子星空教室では、夏と冬に星空教室を行っています。12 月 2 日（金）と 3 日（土）に、冬の星空教室を開催しました。

プラネタリウムで解説を聞き、工作で透明ビニール傘を天球に見立てて星座を傘に描く星空傘を作成しました。屋上での星座観察は、2 日（金）は雨天のために望遠鏡での星座観察はできませんでしたが、タブレットアプリで天球の星座をイメージしたり、天体ドームの紹介と操作体験をしたりしました。3 日（土）には晴れ間が出て、月とそのそばに位置する木星を観察することができました。



プラネタリウム室での講義



傘を天球に見立て星座を描く



大型望遠鏡のしくみ

参加者の感想

- ・月のクレーターまで観察できました。木星も見ることができて、いい体験ができました。
- ・これからはキャンプに行ったときなど、北極星や他の星座を意識してみる！

令和 5 年度も、さらに充実した体験学習教室を計画しています。詳しくは各学校や本総合教育センターの Web ページを通じて案内します。皆様のご参加をお待ちしています。

知的障害を有する子どもの自立活動の充実をめざして ～令和 4 年度「自立活動自主講座」を終えて～

令和 3 年度は知的障害のある子どもの自立活動に係る課題解決を目的として、自立活動自主講座を開催すると共に、「自立活動ハンドブック」を作成し、本総合教育センター特別支援教育班の Web ページに掲載するなど一定の成果をあげることができた。令和 4 年度も前年度に引き続き、県内知的障害特別支援学校教諭を対象とした自立活動自主講座を開催し、更なる学びを展開することができた。

第 1 回自主講座 (10 月 14 日実施) では、「知的障害特別支援学校における自立活動の意義」と題し、『確かな力が育つ知的障害教育「自立活動」Q&A』の著者である弘前大学大学院教授の菊地一文先生より基調講演をいただいた。併せて、本総合教育センター作成の「自立活動ハンドブック」の普及啓発に努め、その活用に関する講義及びワークを通して自立活動の指導の肝となる「流れ図を活用した活動内容の設定」について理論と実践を深められるよう企画した。

第 2 回自主講座 (12 月 2 日) では、前半に「知的障害特別支援学校における自立活動の実践」と題し、今年度退職される那覇特別支援学校の新里誠教諭による、これまでの豊富な実践の報告を通しての理論研修を、後半の「自作教材・教具による自立活動の実践」「自作教材・教具作り」では、はなさき支援学校の仲村新吾教諭による講義・実習を通して実践的な教育方法について企画した。



3D プリンター教具

グループ演習「3D プリンターで作る自立活動で使える教材・教具アイデアを考えよう！」では、iPad を学習机に固定するツール等、複数のアイデアが出された。試作品等については、本総合教育センター特別支援教育班に展示する予定である。

知的障害のある子どもの自立活動に関する課題は、本県の小中学校知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級における課題にも共通するところがあり、次年度は夏期短期研修にて、より多くの先生に自立活動の基本について学んでいただき本県の課題解決に取り組みたい。

高等学校における通級による指導 ～県内 4 校の学校訪問を通して～

平成 28 年 12 月に学校教育法施行規則及び文部科学省告示が改正され、平成 30 年度から高等学校における通級による指導がスタートした。本県においては、平成 30 年度に沖縄県立泊高等学校 (定時制課程午前部) を嚆矢として、令和 2 年度に八重山商工高等 (定時制課程)、令和 4 年度に嘉手納高等学校 (総合学科キャリアアップコース)、那覇工業高等学校 (定時制課程) が自校通級として日々実践に取り組んでいる。特別支援教育班では、今年度県内 4 校の学校訪問、授業見学及び実践報告会、連携協議会参加の機会を得て、各校の取組について知ると共に様々な情報を共有することができた。

高等学校において通級による指導を行うにあたり、自立活動の指導の理解や生徒個々に応じた教育的ニーズの把握、個別の教育支援計画、個別の指導計画の策定等を進めることは決して容易ではない。しかし、どの学校も入念な事前準備と校内における調整が丁寧になされ、生徒一人一人に寄り添った支援、指導を行っていることが伝わってきた。また、特別支援教育についての校内研修、通級指導の取組をいかに職員間で共通理解を図るか、試行錯誤されている点も共通していた。

文部科学省は令和 4 年 12 月に公立小中学校の通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒が 8.8%に上るとの調査結果を公表し、指導体制の充実や専門知識を持つ教員の養成並びに通級指導を重視している。専門性の向上と一口にいっても、それは一朝一夕にはいかず、積み重ねが大切であることは言うまでもない。学校組織において教職員間の連携は、専門性の向上を図る上でも大きな要素となる。なかでも、生徒理解、特性理解、そして指導方法においては、より丁寧な連携が求められる。沖縄県には「万国津梁」という言葉が架け橋という意味で用いられている。生徒一人一人の健やかな成長を願い、どのような「津梁」を架けていきたいのか、また、目の前の生徒の自立と社会参加、社会貢献に向けて、抱える困難をどのように改善・克服していくか、本総合教育センターも特別支援教育の推進に向けて「津梁」の役割を果たして行きたい。

次世代ネットワーク演習システム導入 —ネットワーク技術・情報セキュリティ技術・介護ロボット等—

マルチメディア・ネットワーク研究室では、令和5年1月より、次世代ネットワーク演習システム（以下、次世代システム）を導入しました。このシステムは、ネットワーク技術、情報セキュリティ技術、介護ロボットで構成されており、専門高校における工業系学科・情報系学科・福祉系学科の各分野の特色ある学習内容の充実を目指します。ネットワークシステム技術では、ネットワーク機器に関する技術、無線ネットワーク技術、クライアントPCとサーバー構築に関する技術、Webアプリケーション開発技術について、情報セキュリティ技術では、インシデントやハッキングを含めたセキュリティに関する技術（ハードウェア・ソフトウェア）、介護ロボットでは、AIを活用したコミュニケーションロボット「Palro」の活用技術について実習等を通して、知識・技術の習得を図り、Society5.0の新たな社会に貢献できる技術者の育成を目指します。

生徒実習では、次世代システムの実習体験を通して「どのように学び」「何ができるようになったか」を考え、将来の進路選択につなげることができるよう実習プログラムを準備しています。また、生徒実習や施設見学の他に、次世代システムを活用して、教職員を対象とした夏期短期研修講座や産業教育支援講座など、学校のニーズに応じた講座を開設していきます。多くの専門高校の生徒実習や教職員研修で活用してもらえよう取り組んでいきます。



ネットワークで使用する機器



コミュニケーションロボット「Palro」

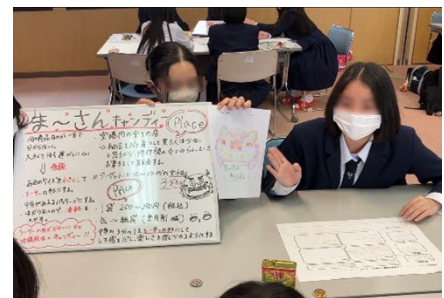
「マーケティング実践実習」 —商業高校でマーケティングを学ぶ生徒を対象にした生徒実習の開設—

マーケティング実践実習は、商業高校でマーケティング分野を学ぶ生徒を対象に令和4年度から新たに開設した実習です。唯一絶対の答えのないビジネス社会において、マーケティングの知識・技術を活用し、仮説を立てプレゼンを繰り返し、他者との関わりの中で検証していきます。科目「マーケティング」における製品政策、プロモーション政策に内容を絞り、商品についての課題を発見し、市場のデータを基に課題解決に向けて協働的に取り組みます。この実習を通して、生徒が市場の変化に対応したマーケティング政策の重要性を理解することをねらいとしています。実習は、①観光土産品の市場調査、②観光土産品の課題の発見、③マーケティング政策の見直し、④ポスターセッション形式での発表、⑤改善策の再検討で進められます。那覇商業高校の生徒実習では、実際に販売されている観光土産品を教材にマーケティング政策の改善点を提案していました。また、振り返りではマーケティング政策の重要性を理解できている記述が見られました。

今後も、多くの生徒が本実習を通して、協働的な実習を体験することでマーケティング分野に関する知識が深まることを期待します。



協働学習による課題発見と改善検討



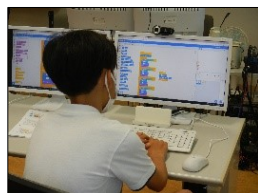
ポスターセッション形式での改善提案

3年ぶりに開催！「児童生徒 I C T 活用セミナー」 ～児童生徒が楽しみながらプログラミングを体験～

新型コロナウイルス流行後、開催を見送っていた「児童生徒 I C T 活用セミナー」を3年ぶりに実施しました。今年度は3つのセミナーを開講し、50名の定員に対して150名を超える申し込みがありました。また、セミナー当日も児童生徒たちが、楽しみながら真剣に取り組む姿が見られました。

- 1 「スクラッチプログラミングセミナー」：プログラミング言語「Scratch」を活用してプログラミングの基礎を体験しました。ブロックやタイルの形をした命令をつなぎ合わせるビジュアルプログラミングで「順次処理・条件分岐・繰り返し」などを学び、徐々にレベルを上げながら、ドッジボールゲーム作成に取り組んでいました。
- 2 「EV3プログラミングセミナー」：ロボット教材「LEGO® マインドストームEV3」での障害物レースや車庫入れ競争などに挑戦しました。児童は、プログラミングで「前進」やセンサーを使った「障害物検知」「回避行動」など、ロボットを動かすフィジカルプログラミング（モノを動かすプログラミング）に試行錯誤しながら取り組んでいました。
- 3 「パソコン組立てセミナー」：デスクトップPCをパーツごとに分解、組立をすることで、ハードウェアの基本的な仕組みを学びました。マザーボード（基盤）・ハードディスク（記憶装置）・CPU（処理装置）などの分解・組立を通してそれぞれのパーツの働きを知り、PCの仕組みを具体的に学ぶことができました。

令和5年度もセミナーの開催を7月後半に予定しています。皆さんの参加をお待ちしています。



セミナーの様子
児童生徒の感想
詳しくは
こちらへ →



特別支援教育に関する I C T 活用について

～実態に応じた情報機器及び機能の選定と困難さを抱える児童生徒への支援について～

G I G A スクール構想により各学校には多くの端末が導入され、I C T を活用した学びの充実が期待されるようになりましたが、児童生徒に障害や困難さがある場合は、実態に応じた情報機器及び機能選定が必要となります。臨機応変にキーボードの脱着ができたり、指先の作業が困難な場合には、タッチペンを活用したりすることで操作性を高めることができます。最近では、端末ごとにアクセシビリティ機能も充実してきています。今年度は I T 教育班で実施した特別支援教育の I C T 活用に関する講座において、参加者にタッチペンの操作やアクセシビリティ機能を体験してもらいました。

I C T の活用は「令和の日本型学校教育」において必要不可欠なものであり、従来の一斉授業とは異なり、生徒全員の意見を「可視化」し、さらに「共有化」できる時代です。また、教室内には、障害ではなくても読み、書き、思考の整理などに困難さを抱えて苦しんでいる生徒もいます。I C T の活用は、そのような生徒の存在に気付く「ツール」にもなります。特別支援教育では、生徒の「困難さ」を軽減するために様々な取組を行っています。例えば、読み上げ機能や書き込み機能の活用、図と背景色の見分けがつきにくい生徒には文字や下地の色やフォント等の変更機能などといった、生徒の実態に応じた I C T の活用方法などを必要な支援として授業に取り入れています。I C T を活用した授業では共有データを探せない生徒も増えています。教室の後ろから生徒の画面を見渡して、他と違う画面が開かれている場合は、Q R コードやリンクを準備して生徒が迷わない工夫が必要です。また、動画データの共有を図り、繰り返し見たり、静止、コマ送り、拡大したりできる環境を提供することで、児童生徒の理解は深まっていきます。

個々のニーズを把握し、実態に応じた指導や支援を行うという特別支援教育の理念の実現に向けて、I T 教育班では I C T の効果的な活用や情報活用能力の育成に資する講座等を今後も提供していきます。

令和 4 年度 後期 ・ 1 年長期研修研究報告会

令和 4 年度後期・1 年長期研修研究報告会が 3 月 7 日(火)～10 日(金)の日程で、本総合教育センターで開催されました。長期研修員 49 名が各自のテーマに基づき、教育課題解決に向けて熱意のある報告を行いました。この報告会から、研究成果が実りある研究だったことが伝わってきました。教育現場でこれから還元していくことを期待し、下記に研修の感想を掲載します。



後期長期研修を終えて

教育経営班 県立具志川高等学校 養護教諭 照屋 寿教



教育センターでは、他校種の先生方との出会いがあり、研修を通して、教育についての様々な考え方や先生方の子供たちに対する深い愛情に触れることができました。また、研究課題を進めるにあたっては、自分の未熟さを痛感する場面も多くありましたが、所長をはじめ、総括、主任、主事の皆様のアドバイスや温かい励まし、そして所属校の協力のおかげで、研究を最後までやり遂げることができました。心より感謝申し上げます。今後も自己研鑽に励み、研修で培った経験を活かして子供たちへ還元していきたいと思えます。

学んだ日々、活かす未来

IT 教育班 県立中部農林高等学校 教諭 仲里 真澄



私にとって「ICT活用」は教師人生最大の課題でありました。早くも研修は大詰めを迎え、多くを学び、一年前とは明らかに変化した自分がいます。最も大きく変化したのは ICT の活用スキルや情報処理能力ではなく、「生徒・学校に対する思い」です。何を身に付けても、目の前に生徒がいなければ真のスキルアップは実証できません。この一年の成否を分けるのはこれから先の実践だと思えます。今高ぶる「生徒・学校への思い」と研修で培ったスキルを、これから現場で実証していきます。本研修で関わっていただいたすべての方々、本当にありがとうございました。

総合教育センターだからこそ、気付けたこと

産業教育班 県立名護商工高等学校 教諭 当間 英俊



研修を振り返り、印象に残っていることが 2 点あります。

1 点目は、班長や主事からの声かけです。検討会等での鋭い指摘に意気消沈する一方、諸活動での取組が認められ褒められた時は高揚感を覚え、声かけの効果を強く実感しました。大人になっても、褒めていただくと嬉しかったです。

2 点目は、研修員同士での学び合いです。農工商家庭科などの各専門教科の見方・考え方について意見交換することで、多様なねらいや見取りに気付きました。学習指導はもちろん、進路指導やキャリア教育にもつながる内容でした。

今後は研修で得た知見を活かして、生徒の状況に応じた丁寧な声かけと実態にあわせた指導を実践していきます。